

報道関係者各位

株式会社 共立総合研究所

## 「2013年度 新入社員の意識調査(結婚観)」

株式会社 共立総合研究所（岐阜県大垣市郭町 2-25 取締役社長 森秀嗣）は、標題の調査結果を取りまとめましたのでご案内します。

### 《要約》

#### 今年度の新入社員の結婚観

**理想の結婚年齢は遅めだが、子どものためにはあまり遅れないようにしたい**

##### ■ 理想の結婚年齢

男女とも理想の結婚年齢は遅くなっているが、「20代後半で結婚したい」が過半数。平均年齢は男性が27.5歳、女性が26.1歳だった。

##### ■ 独身であることに危機感を抱く年齢と理由

男性は平均33.7歳、女性は平均31.2歳

その理由は男女とも「理想の年齢で子どもを得る限界だから」がトップ

##### ■ 結婚で手に入れたいもの

男女ともに「暖かい家庭」がトップ

##### ■ 理想の子どもの数

2人が7割以上

##### ■ 理想の結婚相手

女性新入社員の「理想の結婚相手」は「理想のパパ」と重なる

男性新入社員 「新垣結衣」、女性新入社員 「つるの剛士」

資料配布：大垣市政経済記者クラブ、名古屋金融記者クラブ

【本件に関する問合せ先：共立総合研究所 調査部 いちき 市来 圭 TEL 0584-74-2615】

## 調査概要

当社では、大垣共立銀行がお取引先企業の新入社員向けに開催している研修会の参加者を対象として「新入社員の意識調査」を実施している。今回の新入社員の意識調査では、社会人として新たな生活を始めた新入社員にとって、次の大きな人生の節目である「結婚」についてもアンケートを実施した。当社では同じ新入社員意識調査で10年前（2003年度）と5年前（2008年度）にも「結婚」についてアンケートを実施した。今回はこれらの結果とも比較することで時代とともに新入社員の「結婚観」がどのように変化したのかについて探ってみた。

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県・三重県・滋賀県所在の企業 295 社の新入社員
- (2) 調査期間：2013 年 3 月 18 日～4 月 8 日
- (3) 調査方法：大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(1, 151 名)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数：1, 121 人（有効回答率 97. 4%）
- (5) 回答者属性：

		全体	男性	女性
有効回答者数		1, 121名	609名	512名
平均年齢		21. 2歳	21. 3歳	21. 1歳
最終学歴	高校卒業	32. 1%	32. 9%	31. 0%
	専門学校卒業	8. 2%	8. 6%	7. 9%
	短期大学卒業	6. 4%	2. 6%	11. 0%
	四年制大学卒業	48. 9%	50. 2%	47. 3%
	その他	4. 4%	5. 8%	2. 8%
居住地	岐阜県	48. 0%	49. 2%	46. 7%
	愛知県	39. 7%	39. 4%	40. 2%
	三重県	2. 7%	2. 5%	3. 0%
	滋賀県	2. 6%	2. 7%	2. 4%
	その他	6. 9%	6. 3%	7. 7%
業種	建設業	9. 2%	9. 6%	8. 7%
	製造業	39. 4%	46. 3%	31. 2%
	卸売業, 小売業	15. 2%	12. 5%	18. 5%
	医療・福祉	7. 1%	3. 9%	11. 1%
	サービス業	11. 1%	10. 3%	12. 1%
	その他	18. 0%	17. 5%	18. 5%

注：端数を四捨五入しているため、合計は100%にならない場合がある（以下同じ）。

# 「結婚観について」

## (1) 理想の結婚年齢

### ～男女とも「20代後半で結婚したい」が過半数～

あなたの理想として、何歳に結婚したいと思っていますか（数字記入）」と尋ねたところ、男性の平均年齢が27.5歳、女性が26.1歳となった（図表1）。

理想の結婚年齢を、「20歳以下」「21～24歳」「25～29歳」「30～34歳」「35歳以上」の各グループに分類して10年前（2003年度）、5年前（2008年度）と比較すると、**男女とも理想の結婚年齢が遅くなる**傾向がうかがえた（図表2）。**男性は20代後半が過半数であることは変わらないが、20代は前半・後半とも回答率が減り、30代前半の回答率が25%弱まで増えた。**

一方、**女性も20代後半が過半数であることは変わらないが、20代前半が減少し、20代後半と30代前半の回答率が増加している。**

また、「結婚したくない」とする回答率は、男女とも2008年度に大きく増え、2013年度はほぼ横ばいとなった。これより**「非婚」を選択する層が一定割合出てきた**

ことがうかがえる。

今回の調査では、「結婚したくない」と回答した人（男性n=57人、女性n=37人）に「結婚したくない理由」も選択してもらったところ、男性は「経済的な不安」や「仕事との兼ね合い」などが女性と比べて多く、女性は「結婚生活への不安」が過半数であった（図表3）。

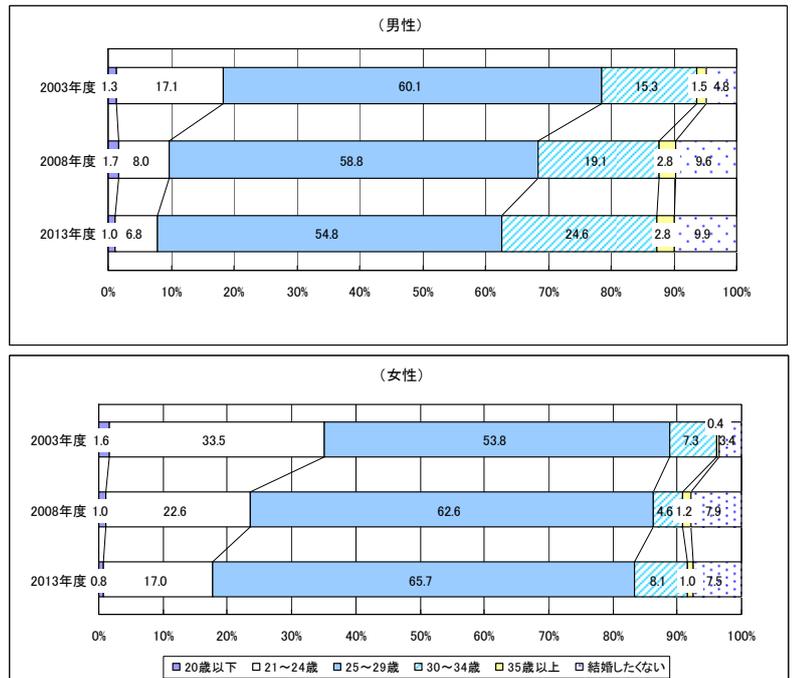
図表1：理想の結婚年齢（平均値）

（単位：歳）

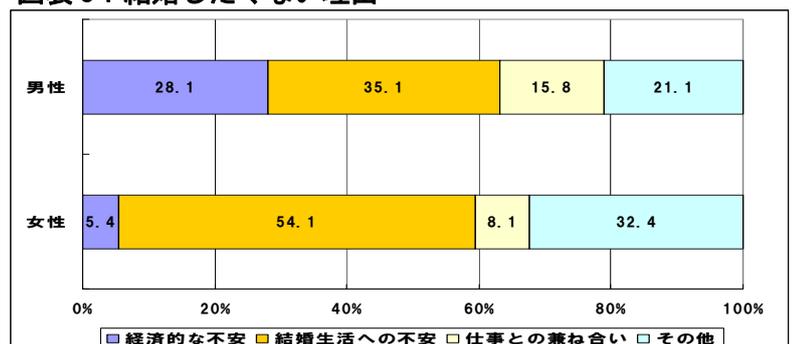
	全体	男女別	
		男性	女性
2008年度	26.4	27.1	25.7
2013年度	26.8	27.5	26.1

（注）2003年度は質問形式が異なるため、平均値の時系列比較ができない。

図表2：理想の結婚年齢（男女年齢階層別）



図表3：結婚したくない理由



## (2) 独身であることに危機感を抱く「年齢」

～男性は平均 33.7 歳、女性は平均 31.2 歳

その理由は男女とも「理想の年齢で子どもを得る限界だから」が 1 位に～

「あなたは何歳まで独身でいたら危機感を抱きますか（数字記入）」と尋ねたところ、男性の平均は 33.7 歳、女性の平均は 31.2 歳となった（図表 4）。

独身であることに危機感を抱く年齢を、「20 歳以下」「21～24 歳」「25～29 歳」「30～34 歳」「35 歳以上」の各グループに分類して 10 年前(2003 年度)、5 年前(2008 年度)と比較すると、男性は 2008 年度に 20 代後半、30 代前半の回答率が増えたが、2013 年度は再び 35 歳以上が増えた。一方、女性は 2008 年度、2013 年度とも 20 代後半が減少し、30 代前半が増加しており、**男女とも年齢が遅くなる傾向がうかがえた**（図表 5）。

「独身であることに危機感を抱く年齢」について、「その年齢は、あなたの中で何の限界ですか（1 つだけ選択）」と尋ねたところ、男女とも 1 位は「理想の年齢で子どもを得るための限界」で、回答率は男性が 29.0% の一方、女性は 45.6% と半数近くのものだった（図表 6）。

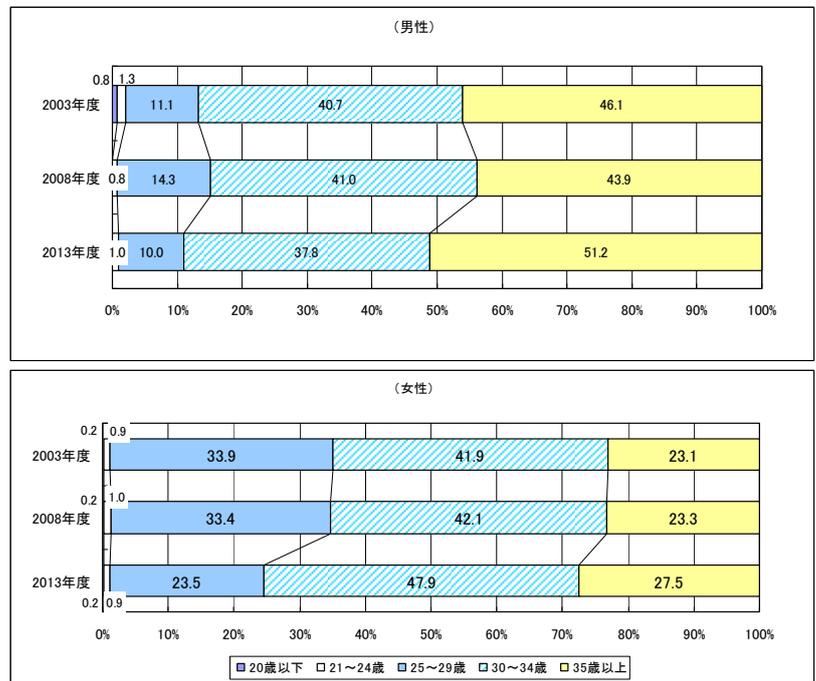
以前の 2 回の調査結果と比較しても、男女ともに「理想の年齢で子どもを得るための限界」が大きく増えており、**高齢出産に関する知識が普及するなどしたことから「子どもを産むなら遅くならないようにしたい」という考えの人が増えている**ことがうかがえる。

一方で、以前は回答が多かった「独身が通用する限界」や「相手を選択できる限界」は回答が減っており、晩婚化によって「結婚」そのものは年齢が高くなってでもできると考えるようになったと推測される。

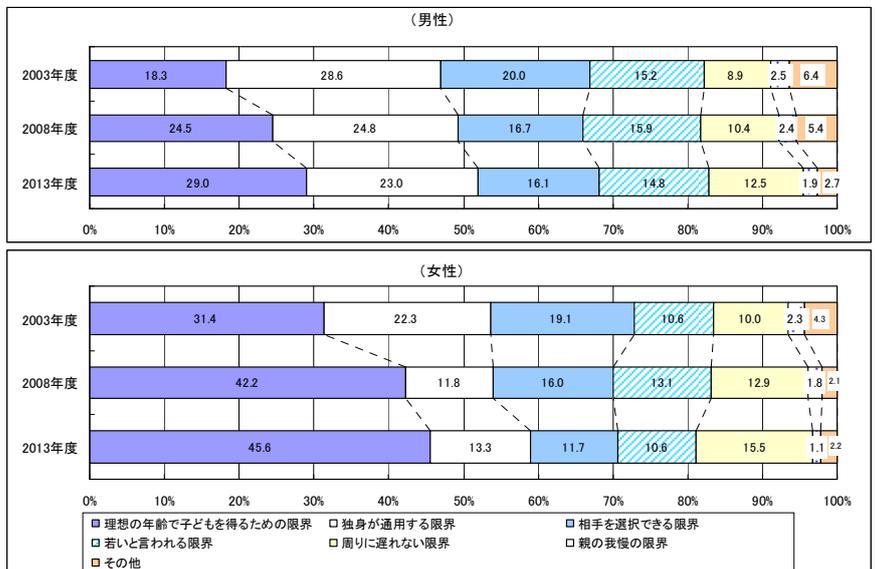
図表 4：独身であることに危機感を抱く年齢（平均値）  
（単位：歳）

	全体	男女別	
		男性	女性
2003年度	32.2	33.8	30.6
2008年度	31.9	33.2	30.6
2013年度	32.5	33.7	31.2

図表 5：独身であることに危機感を抱く年齢（男女年齢階層別）



図表 6：危機感を抱く理由



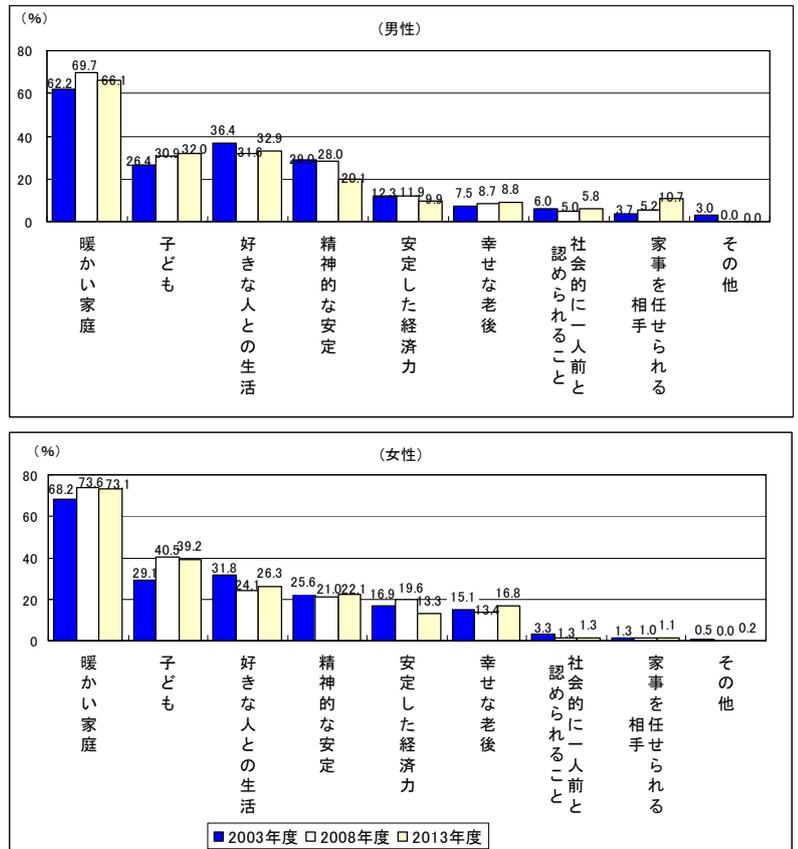
### (3) 結婚で手に入れたいもの

#### ～男女ともに「暖かい家庭」がトップ～

「あなたが、結婚することによって手に入れたいものは何ですか（2 つまで選択）」と尋ねたところ、男女ともに「暖かい家庭」が1位となり、それぞれの回答率は男性66.1%、女性73.1%であった（図表7）。

「暖かい家庭」以下、「子ども」、「好きな人との生活」と続く上位3項目は、順位は入れ違っているが男女とも同じ項目となった。以前と比較してもこれら3項目を重視する傾向は変わらない。

図表7：結婚で手に入れたいもの



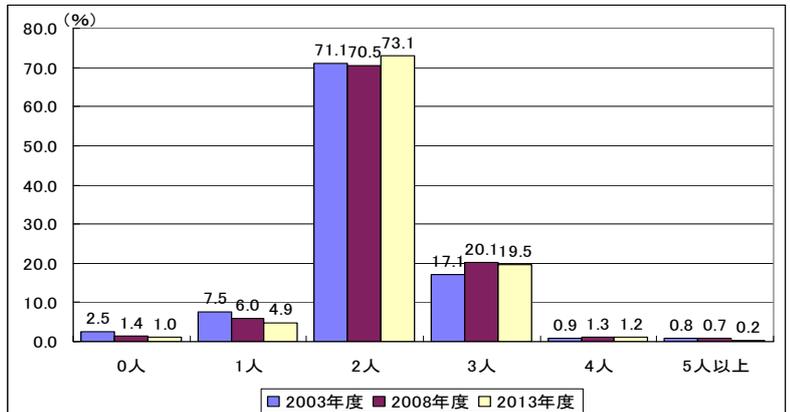
### (4) 理想の子どもの数

#### ～2人が7割以上～

「あなたは、何人くらい子どもが欲しいですか（数字記入）」と尋ねたところ、2人という回答が最多で、73.1%、次いで3人が19.5%だった（図表8）。

2003年度、2008年度との比較では、大きくは変わっていないが、0～1人との回答率が減少し、2～3人との回答率が増えており、子どもを持つなら2～3人は持ちたいと言う人が増えているようだ。

図表8：理想の子どもの数



## (5) 理想の結婚相手

### ～女性新入社員の「理想の結婚相手」は「理想のパパ」と重なる～

「あなたの理想の結婚相手とはどんなタイプですか（自由回答）」と尋ねたところ、男性新入社員から選ばれた理想の結婚相手の1位は「新垣結衣」（支持率 13.5%）、女性新入社員から選ばれた1位は「つるの剛士」（同 8.4%）だった（図表 9）。

特に、女性から支持された理想の結婚相手のうち、「つるの剛士」、「向井理」、「関根勤」、「所ジョージ」、「山口智充」の5人は昨年度調査した「男性の育児参加」に関するアンケートで「理想のパパ」としても支持を集めており、**女性が将来の子育ても考えて、理想の結婚相手を選んでいる**ことがうかがえる。

図表 9：理想の結婚相手

(敬称略)

順位	男性	支持率 (%)	順位	女性	支持率 (%)
1	新垣結衣	13.5	1	つるの剛士	8.4
2	石原さとみ	7.6	2	向井理	7.8
3	宮崎あおい	7.0	3	櫻井翔	5.4
4	堀北真希	6.5	4	関根勤	4.8
	上戸彩		5	岡田将生	4.2
6	綾瀬はるか	5.9		堺雅人	
7	北川景子	5.4		照英	
8	本田翼	4.9		玉木宏	
9	桐谷美玲	4.3		所ジョージ	
	ベッキー		10	山口智充	3.6
				生田斗真	
				福山雅治	

【参考】2012年度女性新入社員が選んだ理想のパパ (敬称略)

順位		支持率 (%)
1	つるの剛士	37.8
2	関根勤	7.8
3	山口智充	4.2
4	反町隆史	3.1
5	杉浦太陽	2.8
6	土田晃之	1.9
7	所ジョージ	1.4
	名倉潤	
9	ジョニーデップ	0.8
	向井理	

(注) 網掛けは2012年度理想のパパの上位10位内に入った人

## (6) まとめ

新入社員の結婚観については、**結婚する年齢が遅くなる傾向がうかがえる一方、子どもを得るために一定年齢以上に遅くなるのは避けたい**との意識もうかがえた。また、女性新入社員からは、イクメンのイメージをもつ男性が理想の結婚相手として選ばれていることなどからも、結婚によって「子どもを持つこと」に積極的と言える。

また、5月17日付けでプレス発表した「新入社員の意識調査（職業観）」の結果から明らかとなったように、会社で中心的な役割を果たしていきたいと考える女性も増えてきていることと考えあわせると、今後の少子化対策として、「子どもを持つこと」に積極的な意識を持つ若者が実際に子どもを持てるよう、**男女ともに働きながら子どもを育てることを支える子育て環境の整備など社会的な取り組みが必要**である。

以上